



東京大学
大気海洋研究所



2011 年 1 月 24 日

東京大学大気海洋研究所
独立行政法人 水産総合研究センター

合同記者会見のお知らせ

人類が初めて目にした天然ウナギ卵 ーウナギ産卵場 2000 年の謎を解くー

【会見日時】 2011 年 1 月 27 日（木）14：00～15：00

【会見会場】 東京大学本郷キャンパス 山上会館 203 会議室

【発表者】

塚本 勝巳（東京大学大気海洋研究所 海洋生命科学部門 教授）
大竹 二雄（東京大学大気海洋研究所 附属国際海洋沿岸研究センター長・教授）
黒木 洋明（独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所
浅海増殖部 浅海生態系研究室主任研究員）
田中 秀樹（独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所 生産技術部繁殖研究グループ長）

【発表要旨】

2008 年より共同でウナギ産卵場調査に取り組んできた東京大学海洋研究所（現 東京大学大気海洋研究所）と水産総合研究センターは、海洋研究開発機構の学術研究船・白鳳丸、水産庁の調査船・開洋丸と照洋丸、水産総合研究センターの調査船・北光丸、水産大学校の練習船・天鷹丸、北海道大学の練習船・おしよろ丸を動員して大規模なウナギ研究航海をマリアナ諸島沖に展開しました。

その結果、2009 年 5 月の新月、ついに世界初の天然ウナギ卵 31 粒を西マリアナ海嶺南端部で採集することに成功しました。これは、東アジア全体に広く分布するニホンウナギの産卵場の位置とタイミングを厳密に特定する決定的証拠となりました。また、古代ギリシャのアリストテレスを悩ませた 2000 年におよぶウナギ産卵場の謎が、完全に解明された瞬間といえます。また、開洋丸と北光丸が捕獲した親ウナギの解析も急ピッチで進み、回遊生態、産卵習性、繁殖生理に関する詳細な新知見が数多く得られました。これらの知見は、人工シラスウナギの種苗生産技術の開発に大きなブレークスルーをもたらすと同時に、世界的に激減したウナギ資源の保全と国際管理のための貴重な科学的根拠になるものと期待されます。

これらの成果は、英雑誌 *Nature Communications* に 2011 年 2 月 1 日（予定）に掲載されます。

【注意事項】

出版社より報道解禁が設定されています。それ以前の公表は禁じられていますのでご了承ください。

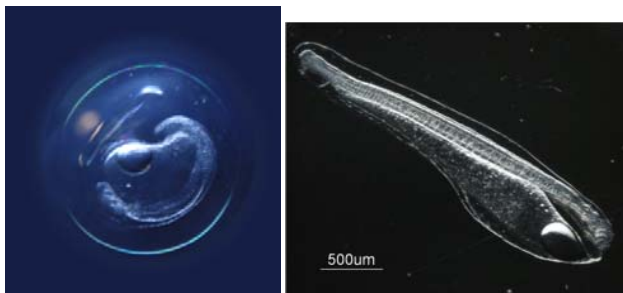
解禁時間：日本時間 2 月 2 日（水）午前 3 時（予定）[ロンドン時間 2 月 1 日（火）午後 6 時]

※解禁日時の正式決定は、1 月 26 日となっています。正式な解禁日時は、記者会見時にお知らせいたします。

【本件照会先】

東京大学大気海洋研究所
広報室長 木村伸吾

独立行政法人 水産総合研究センター
経営企画部広報室
広報企画係長 佐野春美



ニホンウナギの受精卵（左）と船上で生まれたウナギ仔魚（右）

【発表論文】

タイトル： Oceanic spawning ecology of freshwater eels in the western North Pacific

著 者： 塚本勝巳 1、張成年 2、大竹二雄 1、黒木洋明 2、望岡典隆 3、マイケル・ミラー 1、青山潤 1、木村伸吾 1、渡邊俊 1、吉永龍起 4、篠田章 1、黒木真理 5、大矢真知子 1、渡邊朝生 2、秦一浩 6、井尻成保 7、風藤行紀 8、野村和晴 8、田中秀樹 8

所 属： 1. 東京大学大気海洋研究所、2. 水産総合研究センター中央水産研究所、3. 九州大学農学研究院、4. 北里大学海洋生命科学部、5. 東京大学総合研究博物館、6. 水産大学校、7. 北海道大学水産科学研究院、8. 水産総合研究センター養殖研究所

掲載誌： *Nature Communications* (オンライン誌 <http://www.nature.com/ncomms/index.html>)
2月1日掲載 (予定)

【会場へのアクセス】

(最寄駅)

本郷三丁目駅 (地下鉄丸の内線・大江戸線)

湯島駅・根津駅 (地下鉄千代田線)

東大前駅 (地下鉄南北線)

本郷アクセスマップ

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html

山上会館マップ

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html

